

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、日本に未曾有の災害をもたらし、いまなおその被害は続いています。特に原発を巡る環境・エネルギー問題は、私たちの最大の関心事となっておりますが、この問題は国家的な課題である一方、自治体レベルにおいても長期的かつグローバルな視点で取り組みを続けていかなければなりません。そして同時に、原発やゴミ処理といった忌避政策を行ううえでは、住民の合意形成をどう図っていくのかも大きなポイントです。

今回 第一部では、東京電力管内の原発を全てストップさせたこともある佐藤栄佐久前福島県知事をお迎えし、エネルギー政策を巡る国との闘いや地方自治論についてご講演をいただきます。第二部では“環境立市”を掲げ、低炭素・循環型社会の構築に取り組む埼玉県秩父市長、環境問題等に取り組む行動型シンクタンク所長、板橋区から環境課長、議会の区民環境委員長をお招きし、シンポジウムを行います。

ポスト3.11のエネルギー・環境政策に関して、自治体はどう進むべきなのか。この機会に多くの皆様のご来場をお待ちしております。

基調講演

Eisaku Sato

講師 佐藤 栄佐久氏（前福島県知事）

●プロフィール

1939年福島県郡山市生まれ。東京大学法学部卒業後、日本青年会議所での活動（副会頭）を経て、83年参議院議員初当選。87年 大蔵政務次官。88年 福島県知事当選。東京一極集中に異議を唱え、原発問題、道州制などに関して、県民の視点から政府とも妥協せず対峙。「闘う知事」として名を馳せ、5期18年間、県内で圧倒的支持を得た。2006年 事実なき談合関与の疑いで知事を辞任。

知事在任中は、結果として東京電力管内のすべての原発が停止したことがあり、また全県対象の景観条例やゴルフ場開発規制を実施。「環境知事」とも言われた。女性の社会参画にも積極的に取り組み、県内全高校の男女共学化等を実現。

著書に『福島原発の真実』（平凡社新書）、『知事抹殺』（平凡社）、『地方の論理 ～フクシマから考える日本の未来～』（青土社）等

シンポジウム

Symposist

久喜 邦康氏（埼玉県秩父市長）

1954年秩父市生まれ。医師。日本医科大学大学院修了後、1988年に秩父市にて開業。秩父市議会議員を経て2009年新生秩父市の第二代市長に就任。

【秩父市と久喜市長の取り組み】

環境立市を掲げ太陽光やバイオマスなどの地域エネルギーの利用や普及に取り組み、同分野の先駆的な自治体。行財政改革にも力を注ぎ、市長就任早々公約の1つであった市長給与の50%削減を実現。さらには副市長、教育長の給与も削減。毎日ブログを書き続けるなど情報公開や地域の総合医療計画にも積極的に取り組む。また世界保健機関（WHO）の国際認証制度「セーフコミュニティ」の2015年度承認もめざしている。

山本 耕平氏（㈱ダイナックス都市環境研究所代表取締役所長）

1955年姫路市出身。早稲田大学卒業後、神戸市役所勤務を経て1984年ダイナックス都市環境研究所を設立。専門は地方自治論、環境政策。自治体や国の関係機関の委員・ファシリテーターを数多く務める一方、市民活動やNPOの設立運営にも参画。

佐藤 康夫氏（板橋区議会議員・区民環境委員長）

昭和25年東京都北区生まれ。同29年より板橋区在住。会社員を18年間勤めた後、平成3年区議初当選。現在6期目。副議長、監査委員、公明党板橋区議団幹事長など歴任。

矢嶋 吉雄氏（板橋区役所資源環境部環境課長）

昭和33年東京都豊島区生まれ。同59年入区、練馬区区民課長、交通安全課長、板橋区教育委員会事務局生涯学習課長、庶務課長等を経て、平成24年4月より現職。

参加申込用紙（FAX用）

FAX番号 03-5926-6382

郵便番号・住所		氏名
電話	E-mail	〔所属等〕